

スマートウェルネスみしま（静岡県三島市）

～「スマートウェルネスシティ構想」による“健幸”都市づくりの推進～

活動類型⑦エリア単位でのスポーツ実施者の獲得



取組概要

保健医療分野に限らず、生活環境・地域社会などあらゆる分野に健康の視点を取り入れ、市民が自然に健康で豊かになれる新たな都市モデルとして、「スマートウェルネスシティ構想」に基づく街づくりを推進。

スマート（賢く、自然に）、エビデンス（科学的根拠）、コラボレーション（協働）の3つの観点から、住民の健康づくりやいきがい・きずなづくりを促し、生涯にわたる社会参加や地域活性化・産業振興の実現を目指す。

取組の狙いとポイント

市民の スポーツ実施 の現状

- ・ 少子高齢化の進展に伴い、高齢者の健康維持・医療費削減が重要な問題として顕在化している。
- ・ 地域活動への参加や外出頻度が低い高齢者が一定数存在しており、心身の健康の観点から改善が求められる。

科学的根拠を踏まえた健康施策を推進し、運動・スポーツを実践できる環境整備を進めるとともに、交流の場と機会の創出など歩いて暮らせる街づくりを進めることで高齢者の社会参加も推進。

地域活動参加や 外出機会の増加 を促す街づくり

- ・ スポーツ環境づくりとして、ウォーキングプラスワン（地域の事業所等との協働による付加価値のあるウォーキングイベントの開催支援）、ノルディックウォーキングの推進などの取組を実施。
- ・ 地域の公民館を会場に「みしま健幸体育大学」を開講し、連続運動講座を実施。また、各地域で行われている通いの場やシニアクラブ単位でもみしま健幸体育大学の講座を実施し、普段の活動の場で気軽に運動ができる環境を提供。
- ・ スマートウェルネスみしまに沿った活動への参加をポイント化してインセンティブを付与する「健幸マイレージ」など地域活動参加や外出を促すための仕組みを作るとともに、公共交通の利便性向上・利用拡大プロジェクト、ガーデンシティの推進、快適歩行空間整備事業、コンパクトなまちづくりの推進プロジェクトなど歩いて暮らせる街づくりを推進。

取組効果

- ・ H23からR1にかけて、1日30分以上の身体活動を週1回以上している人の割合が、44.3%から63.9%へと上昇した。
- ・ 静岡県独自の指標である「お達者度（65歳を過ぎても自立して健幸に生活できる期間）」がH23からH28にかけて、男性が17.40年から18.61年、女性が20.92年から21.37年へ上昇した。
- ・ 市民の幸福感はH24からR1にかけて幸せと感じる人の割合が57.0%から60.1%に上昇した。

今後の展開、取組方針

- ・ 健康づくり無関心層へのアプローチに向けた健幸アンバサダーのさらなる養成、みしま健幸体育大学の継続実施による住民が身近な場所で運動ができる体制の強化、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施による高齢者の健康増進などに取り組んでいく方針。

実施体制、運営状況等

“健幸”都市づくりの指針として「スマートウェルネスみしまアクションプラン」を策定。「健康づくり」、「いきがい・きずなづくり」、持続可能な健康都市づくりを可能にする「地域活性化・産業振興」の3領域を並行して、多角的に施策を展開している。

健康推進部健幸政策戦略室が推進事務局となり、健康関連の部局のみならず、環境市民部、産業文化部、計画まちづくり部などの各課が参画して庁内横断のプロジェクトチームを立上げ、アクションプランを策定し、領域ごとのコアプロジェクトを検討、推進している。

実施期間：2011年（平成23年度）～

予算：41,285千円（スマートウェルネスシティ構想関連）

運営資源：関係部局（環境市民部、健幸推進部、産業文化部、計画まちづくり部）